

速報 1

(上文省略)

3月14日の外観観察と調査の範囲で衰退要因と思われる「ならたけもどき病」の検査のため幹根元の一部から樹皮サンプルを採取し試験機関に分析依頼をした。その結果、3月24日培養したサンプルから「ナラタケ属菌類の特徴である根状菌糸束」を確認出来たので推測どおり、サカキの衰退、枯損原因は「ならたけもどき病」と判明した。この病気については、後述するが確立した治療方法がなく、同じ場所への再植栽も大変難しい病気です。「ならたけもどき病」については貼付資料1参照下さい。

1. 調査経過と調査結果

1) サカキ 3月14日調査時の状況



右近のサカキ



左近のサカキ



枯損部の枝の状況



採取した根元の樹皮

右近のサカキは一部の枝が枯死しており、その他は健全である。左近のサカキは全体が完全に枯損している。枯れ葉のついた枝の状況から急激に水分通導が無くなる生理障害（萎ちょう病状態）を呈しており、幹の根元及び根に何らかの障害を受けた場合に起こりうる現象である。

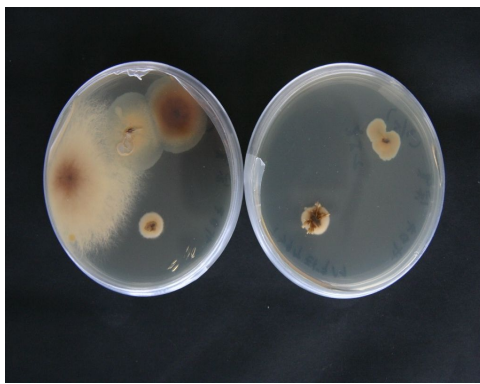
念の為全枯損の左近のサカキの幹の根元の樹皮を剥ぐと菌糸に覆われた樹皮が出現した。又、その樹皮片は強いキノコ臭がしたのでこれらの状況からナラタケ属菌類の罹病を疑い、土壌表面を更に観察すると偶然に乾燥した子実体（キノコ）を発見、よりナラタケ属菌類の「ならたけもどき病」に罹病している可能性が高くなり、採取した樹皮サンプルを試験機関に送り培養、同定することにした。



確認した子実体（キノコ）の残骸

ナラタケモドキの子実体は劣化しても繊維が残りやすいため、通常のキノコと区別しやすい。

2) 検査結果（3月24日培養結果報告）



培養の結果、ナラタケ属菌類の特徴である根状菌糸束が出現、子実体の残骸等と総合判断をすると「ならたけもどき病」に罹病していると思われるが、最終枯損の主原因が「ならたけもどき病」である診断は、後述の本調査結果と総合して判断します。

3) 本調査結果

聞き取り調査、土壌調査の結果、今後の処置等提案等については別紙「本調査結果詳細報告書」を参照下さい。

(以下文書省略)